

市民地質巡検～札幌のメムを訪ねる～

北大総合博物館で開催されている「地質の日」記念企画展示「地図が語る多様な世界ー地図の過去・現在・未来ー」の関連イベントの市民地質巡検が行われました。当協会は、この行事の共催団体となっています。



北大中央ローンを行く市民巡検の一行

この場所は、メムの地形が良く残されています。水の流れる一段低い低地とそれより約3mほど高い微高地があります。メムからの水は、低地の中を蛇行しながら流れていきます

5月18日（日）は、朝から霧雨の降る寒い日でしたが、昼過ぎには薄日も差し、少し暖くなりました。午後1時半に北大植物園前に集まって、全体の行程の説明がありました。

案内は、札幌市博物館活動センターの古沢 仁氏、北海道立総合研究機構 地質研究所の鈴木隆広氏で、そのほかに北大総合博物館の在田一則氏（巡検責任者）、産業技術総合研究機構の中川 充氏、それに北海道地質調査業協会の石井正之が世話役として参加しました。

まず、植物園から北1条通へ行って西の方を眺めました。道路が緩く下っています。

これがメムの名残の地形で、低くなっている付近が流れになっていました。

リンケージプラザの敷地内にあるメムの地形を見てから植物園に戻り、園内のメムの地形を見学しました。ここには、非常に良くメムの地形が残されています。植物園南側の高山植物園付近から湧き出した水は、正門付近で東に一度出て宮部金吾記念館の北で再び園内に入り、植物園の北西の角から北北西に向かって流れ出ていました。現在流れている水は、井戸から汲み上げています。



植物園前での全体説明



植物園のメムの流れを前に

植物園を出てメムの名残である西 8 丁目の道路の曲がりを見ながら伊藤邸の南の縁（北 5 条通）へとメムの地形を辿りました。

JR 函館本線北側の西 7 丁目から 11 丁目にかけては、道路が基盤の目になっていません。ここには、明治の初めに借楽園と名付けられた公園がありました。メムからの流れに沿って鮭卵孵化場、花室（温室）、博物所、製物場、貴賓接待所の清華亭など建てられました。明治 14（1881）年の明治天皇の行幸の時に休憩所として使われました。

この付近の流れは、伊藤邸の中のメムからの湧き水で、植物園の流れとは別物でした。



北 5 条通のメムの地形

西に向かって緩く下っています。低いところがメムの流れの跡です。



伊藤邸西側のメムの名残

車のある付近が一番低くなっています。中央右の大きな木は移植されたケヤキです。

北 8 条通を渡り，北大中央ローンへ行きました。清華亭付近からの流れの地形が，ここではきれいに保存されています。ここで流されている水は，藻岩浄水場からの放流水を古い水道管で持ってきています。

この流れの地形は連続して良く残されていて，工学部の南側にある大野池まで追うことができます。

大野池の前で地質巡検は終了しました。この後，北大附属博物館の 1 階北西の階段下にある一等重力点「札幌 GS」を見学しました。博物館開館中は誰でも見ることができ，説明も整っています。



工学部南の大野池

ここで巡検は終了しました。大野池は，大正時代に農学部第 2 農場の牛馬の飲用水と実験農場の水源として利用されていました。



北大総合博物館 2 階で開催中の
「地質の日」展を見学

地図の歴史から最新の地図についての展示です。

6 月 8 日（日）まで開かれています。

5 月 24 日（土），午後 1 時半から午後 3 時まで，市民セミナー「ライマンはなぜ開拓峠で道に迷ったか-江戸末期～明治初期の地形図事情-」（講師：地徳 力氏）が，北大総合博物館 1 階「知の交流コーナー」で開かれます。入場無料，申し込み不要です。ぜひお越し下さい。